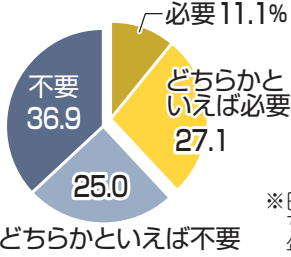


皆さんの親は、お酒を飲みますか？ 例年であれば、年末年始は会社の忘年会や新年会などの飲み会が増える時期。今シーズンは新型コロナウイルスの影響で自粛モードが続いていますが、そもそもどうして

大人たちは飲み会に行くのでしょうか。本当に必要なのでしょうか。皆さんはまだお酒を飲める年齢ではありませんが、将来に向けて考えてみませんか？

(河郷丈史)

職場の人との「飲みニケーション」は必要？



※日本生命保険の「勤労感謝の日」に関するインターネットアンケート(2021年10月、回答者数7774)を基に作成

くらしの中から「考える」

飲み会

厚生労働省の国民健康・栄養調査(二〇一九年)によれば、法律で飲酒が認められている二十歳以上のうち、お酒を「毎日飲む」人は18・1%、「週五〜六日」は5・5%、「週三〜四日」は5・9%、「週一〜二日」は7・9%。性別では男性の方が飲酒頻度が高く、「毎日飲む」は女性が7・4%だったのに対し、男性は30・2%だった。お酒を飲む場面はさまざまだが、その一つが仲間同士で店などに集まり、おしゃべりしながら飲む「飲み会」だ。同じ会社の社員たちが仕事帰りに居酒屋に立ち寄ることもあるし、大学のサークル仲間や、母校の同窓生らと集まることもある。

ただ、飲み会に行く人がみんなお酒が目的かという点、そうでもない。「人と集みたい」という気持ちがあるから。その上で、コミュニケーションを深める手段としてお酒がある。酒文化の調査研究などを手が

ける酒文化研究所(東京)社長の狩野卓也さんは言う。お酒に含まれるアルコールには、体に入ると気分が爽やかになったり、おしゃべりになったりする効果がある。会話が盛り上がり、出会ったばかりの人でも打ち解けやすい。このため、仲間と交流を深めることとはもちろん、ビジネスの相手と良い関係を築くなど、仕事の一環としても飲み会は開かれている。こつした行動は、お酒を飲むこととコミュニケーションを組み合わせる「飲みニケーション」と呼ばれ、社会に根付いている。ただ、仲の良い友人との飲み会は好きでも、仕事関係の人とは行きたくないという

◆ 仕事上の付き合い

◆ お酒だけが目的？

仲間同士で交流できる

人も。会社の偉い人からの誘いを断れずに仕方なく付き合いケースもあれば、子育てや介護で時間が取れない場合もある。お酒は飲み過ぎると健康を害するし、酔っぱらうと周りに迷惑を掛けたり、危険な行動を取ったりする恐れもある。日本生命保険が十月に行ったアンケートによると、職場の人との飲みニケーションが「必要」「どちらかといえば必要」と答えた人は38・2%。その理由は「本音を聞ける・距離を縮められる」「情報収集」「ストレス発散」「悩みを相談できる」の順に多かった。不要と考える人の理由では「気を使う」「仕事の延長と感ずる」「お酒が好きではない」「お金がもつ

「気を使う」と思う人も

トします。応募は〒460 8511 中日新聞(東京新聞)生活部「学ぶ」係=ファクス052(222)5284、メール seikatu@chunichi.co.jp=へ。QRコードから、ワークシート兼応募用紙もダウンロードできます。今回は冬休みを挟んで1月20日まで募集します。

意見送ってください

誰かと仲良くなりたいときはどうしますか？ 将来、飲み会に行きたいですか？ 皆さんの意見を送ってください。紙面で紹介したお子さんの中から抽選で図書カードをプレゼント



「たいたい」などが上位に。飲み会について、大人たちもいろんな思いを抱いているようだ。